

4 ブドウ

ICS 65.020.20

B 05

NY

中華人民共和國農業標準

NY/T XXXX-201X

植物新品種の区別性、均一性、安定性 に関する審査基準 ぶどう

Guidelines for the conduct of tests for distinctness,
uniformity and stability

Grapevine

(*Vitis* L.)

(UPOV: TG/50/9, Guidelines for the conduct of tests for
distinctness,

uniformity and stability-Grapevine, NEQ)

(審査申請稿)

XXXX-XX-XX 発表

XXXX-XX-XX 実施

中華人民共和國農業部

目 次

序文

- 1 対象
 - 2 規範性の引用文献
 - 3 専門用語及び定義
 - 4 符号
 - 5 種苗に関する要求
 - 6 測定方法
 - 7 区別性、均一性、安定性の結果に関する判定
 - 8 特性表
 - 9 グループ分けの形質
 - 10 特性調査表
- 附録 A（規範性附録）ぶどう形質一覧表
- 附録 B（規範性附録）ぶどう形質一覧表の解釈
- 附録 C（規範性附録）ぶどう特性調査表

序 文

本標準は GB/T 1.1-2009 の規則に基づいて起草されたものである。

本標準は改めて起草する方法で、国際植物新品種保護連盟 (UPOV) のガイドライン「TG/50/9, Guidelines for the conduct of tests for distinctness, uniformity and stability-Grapevine」を修正し、採用した。

本標準は UPOV ガイドライン TG/50/9 に対応する。本標準は TG/50/9 との一致性程度は非同等である。

本標準は UPOV ガイドライン TG/50/9 と比べれば、技術的な差異が存在する。主な差異は次に上げるとおりである：

——「成葉：葉柄側裂刻が葉脈に制限されるタイプ」、「成葉：葉柄側裂刻の重なり」、「成葉：横断面の形」、「穂：形状」、「穂：岐肩」、「果粒：重さ」、「果粒：果皮の渋味」という七つの形質を追加した。

——「果粒：色」、「果粒：香り」、「花序：花器タイプ」、「成葉：葉柄の窪み開き重なるタイプ」、「成葉：上裂片開き重なるタイプ」、「果粒：果肉の硬さ」という二つの形質を調整した。

本標準は中華人民共和国農業部種子管理局により提出された。

本標準は全国植物新品種テスト標準化技術委員会 (SAC/TC 277) により管理される。

本標準の作成に参加した団体：中国農業科学院鄭州果樹研究所、山西省農業科学院果樹研究所、農業部科学技術発展センター、延慶県果品サービスセンター。

本標準の主な作成者：劉崇懷、樊秀彩、孫海生、張穎、姜建福、馬小河、堵苑苑、郭景南、李文軍。

植物新品種の区別性、均一性、安定性の測定ガイドライン ぶどう

1 対象

本標準はぶどう新品種の区別性、均一性、安定性の測定技術要求と結果判定の一般的な原則を規定する。

本標準はぶどう属(Vitis L.)新品種の区別性、均一性、安定性の測定と結果判定に適用する。

2 規範性の引用文献

次に挙げる文献は本標準の応用にとって不可欠なものである。期日を注釈した引用文献について、期日を注釈したバージョンのみが本標準に適用する。期日を注釈しない引用文献について、その最新バージョン（すべての更新履歴を含む）は本標準に適用する。

GB/T 19557.1 植物新品種区別性、均一性、安定性の測定ガイドライン 総則

NY/T 469 ぶどうの苗木

3 専門用語及び定義

GB/T 19557.1 で決めたモノ、及び次にあげる専門用語と定義は本標準に適用する。

3.1 群体測定 single measurement of a group of plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、テストを行い、集団として測定記録。

3.2 個体測定 measurement of a number of individual plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、テストを行い、個々の測定記録。

3.3 群体調査 visual assessment by a single observation of a group of plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、調査を行い、集団として調査記録。

3.4 個体調査 visual assessment by observation of individual plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、調査を行い、個々の調査記録。

4 符号

下記符号は本標準に適用する。

MG：植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS：植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG：植物体あるいは植物体の一部を集団として調査記録

VS：植物体あるいは植物体の一部の個々の調査記録

QL：質的形質

QN：量的形質

PQ：擬似の質的形質

*印を標記した形質は、UPOV が品種の記述のために、統一して使っている重要な形質である。すべての UPOV メンバーはこれらの形質を使用しなければならない。環境条件の制限で形質を測定できない場合を除く。

～(f)：標記された内容について、詳しくは B.2 を参照ください。

(+)：標記された内容について、詳しくは B.3 を参照ください。

—：本標準において、アンダーラインは形質を測定する適用範囲を特別に提示するものである。

5 種苗に関する要求

- 5.1 種苗は挿し木或いは種苗の形で提供されること。
- 5.2 提出する種苗の数量は少なくとも 10 株、或いは挿し木の数量は少なくとも 50 芽であること。
- 5.3 提出する種苗は外観がよく、健全で、活力に満ち、病虫害に汚染されていないこと。種苗の質量が NY/T 469 に規定された一級種苗という要求を満たすこと。
- 5.4 提出する種苗について、通常では、正常に品種形質を表現することに影響するほどの処理を行わないこと。すでに処理された場合、詳しい説明を提供すること。
- 5.5 提出する種苗は中国植物検疫に関する規定に合致しなければならないこと。

6 測定方法

6.1 測定周期

測定周期は少なくとも二つの独立的な生育周期である。

6.2 測定地

測定は通常では同一の場所で行われる。当地点ではある形質を十分に表すことができない場合、他の条件に符合する場所で調査を行うことができる。

6.3 栽培試験

6.3.1 試験の設計

出願品種と類似品種を隣接して栽培する。接木をする場合、出願品種と類似品種の使う台木が合致すること。適宜する株の行間と同じ整形方法を取る。

高畦双行で栽培する。それぞれの区に少なくとも 20 個体がある。個体の間の距離は 20 cm ぐらい、行間は 25 cm ぐらい、2 回反復する。

6.3.2 栽培管理

当地の通常の生育管理方法で管理する。

6.4 形質調査

6.4.1 調査の時期

表 A にリストアップされた生育段階に従って形質調査を行う。生育段階に関する記述は表 B.1 を参照ください。

6.4.2 調査方法

表 A に規定された調査方法 (VG、VS、MG、MS) によって、形質調査を行う。一部の形質の調査方法について、B.2 及び B.3 を参照ください。

6.4.3 調査数量

特に指示がない限り、個体の形質調査 (VS、MS) の調査個体数は 10 個以上である。植物体の器官又は一部の調査にあたって、各植物体の調査数は一個である。群体の形質調査 (VG、MG) の場合、全区又は規定された範囲内の混合サンプルを調査する。

6.5 追加測定

必要の場合、本標準でリストアップされていない形質を選択し、追加測定を行う。

7 区別性、均一性、安定性の結果に関する判定

7.1 全体的な原則

区別性、均一性、安定性の判定は GB/T 19557.1 によって確定された原則で行われる。

7.2 区別性の判定

出願品種は明らかにすべての既存品種と区別されなければならない。測定で、出願品種が少なくとも一つの形質について、類似品種と明らかに再現できる差異が存在する場合、出願品種が区別性を有すると判定できる。

7.3 均一性の判定

供試品種について、均一性の判定を行う場合、1%の群体標準と少なくとも 95%の許容率を採用する。供試個体数は 10 個の場合、許容される異型個体数は 1 である。

7.4 安定性の判定

一の品種に均一性を有するなら、当品種に安定性を有すると判定できる。通常では、安定性について、測定を行わない。

8 特性表

測定の必要によって、形質は基本形質と選択可能形質に分ける。基本形質とは、測定に必ず使用する形質である。基本形質について、表 A.1 を参照ください。選択可能形質について、表 A.2 を参照ください。

8.1 要約

特性表において、形質、分類、状態及び対応の階級及び標準品種、調査時期と方法などの内容をリストアップした。

8.2 分類

特性の表す方式によって、形質は質的形質、擬似の質的形質及び量的形質という三つのタイプに分けている。

8.3 状態及び対応の階級

8.3.1 形質の定義と記述の規範のため、各形質は一連の状態に分けている。データの記録、処理、品種記述の作成及び交流のため、各状態が相応の階級を有する。

8.3.2 質的形質と擬似の質的形質について、すべての状態は測定ガイドラインで記述しなければならない：量的形質について、特性表の長さを縮めるため、偶数の階級の状態をリストアップしなくてもかまわない。偶数の階級の状態について、前の状態から次の状態への形で表現できる。

8.4 標準品種

関連の形質のそれぞれの状態を確定するため、環境の原因で引き起こした差異を修正するため、特性表に、一部の形質状態について、参考できる標準品種をリストアップした。

9 グループ分けの形質

測定品種についてグループ分けをすべきである。グループ分けする形質が不変異又は変異する程度が小さいもの。それに、それら形質の差異が明らかであり、全て収集できた品種の中で均等分布するはずである。ユーラシア種、アメリカ種、欧米雑種及びその他の種

類によって分類し、下記形質によってグループ分けをする。

- a) 若葉：裏面の主脈上の直立毛じの密度(形質 30)
- b) 成葉：裂片の数(形質 11)
- c) ベリー成熟始期(形質 19)
- d) 果粒の形(形質 24)
- e) 果粒：色(形質 25)
- f) 果粒：香り(形質 27)
- g) 果粒：種(形質 28)

10 特性調査表

出願人は附録Cのフォーマットでぶどうの特性調査表を記入する。

附録 A
(規範性附録)

ぶどう形質一覧表

A.1 ぶどうの基本形質

表 A.1 ぶどうの基本形質一覧表

番号	形質	観測時期と 方法	状態	標準品種	階級
1	萌芽期 QN (*) (+)	05～09 MG	極早	莎巴真珠	1
			早	白沙斯拉	3
			中	雷司令	5
			遅晩	灰比諾	7
			極遅晩	白玉霓	9
2	幼しょうの先端 の葉の開度 QN (*) (a) (+)	14～16 VG	閉じる	河岸ぶどう	1
			わずかに開く	5BB	2
			半開きから開く		3
			開く		4
				無核白	5
3	幼しょうの先端 の毛じの密度 QN (*) (a)	14～16 VG	無又は極粗	無核白	1
			粗	莎巴珍珠	3
			中	灰比諾	5
			密	紅富士	7
			極密	紅港	9
4	幼しょう先端の 毛じのアントシ アニン着色の強弱 QN (*) (a) (+)	14～16 VG	無又は極弱	無核白	1
			弱	雷司令	3
			中	巨峰	5
			強	紅港	7
			極強	康可	9
5	若葉の表面の色 PQ (*) (b) (+)	14～16 VG	黄緑	莎巴珍珠	1
			緑	Silvaner	2
			紅斑を伴う緑	雷司令	3
			淡赤銅	5BB	4
			赤銅	白沙斯拉	5
			濃紅	塘尾ぶどう	6

番号	形質	観測時期と 方法	状態	標準品種	階級
6	若葉裏面の葉脈 間の毛じの密度 QN (*) (b)	14～16 VG	無又は極粗	洛特沙地ぶどう	1
			粗	莎巴珍珠	2
			中	巨峰	3
			密	一品香	4
			極密	康可	5
7	新しょうの節間 の上面の色 PQ (*) (c)	60～69 VG	緑	昆諾無核	1
			赤と緑	バラの香り	2
			赤	鄭果 25 号	3
8	花序：花器のタイ プ QL (*) (+)	61～68 VG	雄花	洛特沙地ぶどう	1
			雌能花	巧吾斯	2
			両性花	バラの香り	3
9	成葉の大きさ QN (*) (d) (+)	75～77 VG/MS	極小	洛特沙地ぶどう	1
			小	緋	3
			中	鄭果 25 号	5
			大	酔金香	7
			極大	香悦	9
10	成葉の形 PQ (*) (d) (+)	75～77 VG	心臓形	バラの香り	1
			くさび形	普利亜特	2
			五角形	白沙斯拉	3
			円形	フランス青	4
			腎臓形	洛特沙地ぶどう	5
11	成葉の裂片数 QN (*) (d) (+)	75～77 VG	無し	洛特沙地ぶどう	1
			3	康可	2
			5	白沙斯拉	3
			7	赤霞珠	4
			7 以上	夏夫拉尼	5
12	成葉の葉柄側裂 刻の重なり QN (*) (d) (+)	75～77 VG	極広く開く	洛特沙地ぶどう	1
			開く	普利亜特	2
			半分開く	白雅	3
			閉じる	白沙斯拉	4
			わずかに閉じる	アレクサンダー	5
			やや重なる	夏夫拉尼	6
			深く重なる	白夏尼	7

番号	形質	観測時期と 方法	状態	標準品種	階級
13	成葉の鋸歯の長さ QN (*) (d) (+)	75～77 VG/MS	短	雷司令	1
			中	白沙斯拉	3
			長	貝達	5
14	成葉の鋸歯の長さ／基部幅 QN (*) (d) (+)	75～77 VG/MS	極小	一品香	1
			小	鄭果 25 号	3
			中	巧吾斯	5
			大	緋	7
			極大	白雅	9
15	成葉の鋸歯の形 PQ (*) (d) (+)	75～77 VG	両側凸形	白バナナ	1
			両側直線形	鄭州早紅	2
			両側えぐれ形	普利亜特	3
			片側えぐれ、片側凸形	白雅	4
			両側直線形と両側凸形が混在	巨峰	5
16	成葉表面の主脈のアントシアニン着色の強弱 QN (*) (d) (+)	75～77 VG	無又は極弱	貴人香	1
			弱	アレクサンダー	3
			中	雷司令	5
			強	洛特沙地ぶどう	7
			極強	白雅	9
17	成葉裏面の主脈間の毛じの密度 QN (*) (d)	75～77 VG	無又は極粗	洛特沙地ぶどう	1
			粗	黒比諾	3
			中	雷司令	5
			密	紅富士	7
			極密	康可	9
18	成葉裏面の主脈上の毛じの密度 QN (*) (d)	75～77 VG	無又は極粗	洛特沙地ぶどう	1
			粗	莎巴珍珠	3
			中	オットーバラ	5
			密	普利亜特	7
			極密	菱葉ぶどう	9

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
19	成熟始期 QN (*) (+)	81 MG	極早 早 中 晩 極晩	莎巴珍珠 緋 巨峰 紅地球 秋黒	1 3 5 7 9
20	果房の大きさ QN (*) (e) (+)	89 VG/MS	極小 小 中 大 極大	山ぶどう 貴人香 バラの香り 紅地球 里ザ馬特	1 3 5 7 9
21	果房の着粒密度 QN (*) (e) (+)	89 VG	極粗 粗 中 密 極密	甲州三尺 緋 バラの香り 白雅 貴人香	1 3 5 7 9
22	穂梗の長さ QN (*) (e) (+)	89 VG/MS	極短 短 中 長 極長	黒比諾 バラの香り アレクサンダー 紅富士 峰寿	1 3 5 7 9
23	果粒の大きさ QN (*) (f) (+)	89 VG/MS	極小 小 中 大 極大	ソソぶどう 雷司令 バラの香り 緋 巨峰	1 3 5 7 9
24	果粒の形 PQ (*) (f) (+)	89 VG	円柱形 長橢円形 橢円形 円形 扁円形 卵円形 鈍卵形 倒卵形 曲げ形 帯形	里ザ馬特 ポールガール 巨峰 巴コナン 昆諾核無し 赤ひよこ 紅富士 ロバ胸 瓶	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
25	果粒の色（果粉を除いたもの） PQ (*) (f)	89 VG	緑	莎巴珍珠 紅富士 紅港 灰比諾 巨峰 フランス青	1
			黄緑		2
			黄		3
			淡紅		4
			赤		5
			灰赤		6
			濃紫赤		7
			青黒		8
26	果粒：果肉のアントシアニン着色の強弱 QN (*) (f) (+)	89 VG	無又は極弱		1
			弱		3
			中		5
			強		7
			極強		9
27	果粒の香り PQ (*) (f)	89 VG	無し	白雅 バラの香り 紅富士 康可 赤霞珠	1
			バラの香り		2
			ストロベリーの香り		3
			フоксиハーブ		4
			その他		5
					6
28	果粒：種 QL (*) (f) (+)	89 VG	無し	黒柯林ス 無核白 昆諾無核 紅地球	1
			栽培失敗タイプ I		2
			栽培失敗タイプ II		3
			正常		4

A.2 ぶどうの選択可能形質

表 A.2 ぶどうの選択可能特性表

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
29	幼しょう先端直立 の絨毛の密度 QN (a)	14～16 VG	無又は極粗	洛特沙地葡萄	1
			粗	3309C	2
			中		3
			密	普利亚特	4
			極密	秋葡萄	5
30	若葉裏面の葉脈 間直立の毛じの密 度 QN (b)	14～16 VG	無又は極粗	洛特沙地葡萄	1
			粗	莎巴珍珠	2
			中	贝达	3
			密	普利亚特	4
			極密	秋葡萄	5
31	新しょうの向き PQ (c) (+)	60～69 VG	直立	白羽	1
			斜上	奥托玫瑰	2
			水平	黑比诺	3
			斜下	贝达	4
			下垂	3309C	5
32	新しょうの節間 の下面の色 PQ (c) (+)	60～69 VG	緑	昆诺无核	1
			赤と緑	埃里求凡	2
			赤	郑果 25 号	3
33	新しょうの節腹側 の色 PQ (c)	60～69 VG	緑	菱叶葡萄	1
			赤と緑	Salt creek	2
			赤	洛特沙地葡萄	3
34	新しょうの節裏側 の色 PQ (c)	60～69 VG	緑	菱叶葡萄	1
			赤と緑	Salt creek	2
			赤	洛特沙地葡萄	3
35	新しょうの節間 直立の絨毛の密度 QN (c)	60～69 VG	無又は極粗	3309C	1
			粗		2
			中	雷司令	3
			密	普利亚特	4
			極密	菱叶葡萄	5

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
36	新しょうの巻き ひげの長さ QN (c)	60～73 VG	極短	莎巴珍珠	1
			短	紅地球	3
			中	黒比諾	5
			長	白沙斯拉	7
			極長	布拉基达希	9
37	成葉の葉柄の長さ／基部幅 QN (d) (+)	75～77 VG	極小	洛特沙地ぶどう	1
			小	白羽	2
			中	アレクサンダー	3
			大	ゲーテ	4
			極大	緋	5
38	成葉：葉柄窪が葉脈に制限されるタイプ QL (d) (+)	75～77 VG	制限無し 制限される	バラの香り	1
				赤霞珠	2
39	成葉：表面の凹凸の強弱 QN (d) (+)	75～77 VG	無又は極弱	洛特沙地ぶどう	1
			弱	白沙斯拉	3
			中	河岸ぶどう	5
			強	白玉霓	7
			極強	山ぶどう	9
40	成葉の上裂刻の深さ QN (d) (+)	75～77 VG	極浅	貝達	1
			浅	白バナナ	3
			中	白玉霓	5
			深	白沙斯拉	7
			極深	夏夫拉尼	9
41	成葉の上裂片の重なり（裂刻のある品種に限る。） QN (d) (+)	75～77 VG	開く 閉じる 重なる	康可	1
				白沙斯拉	2
				赤霞珠	3
42	成葉の下裂片の重なり（裂刻のある品種に限る。） QN (d)	75～77 VG	開く 閉じる 重なる	柔丁香	1
				白沙斯拉	3
				赤霞珠	5

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
43	成葉：横断面の形 QN (d) (+)	75～77 VG	平 V 形 内巻き 外巻き 波状	赤霞珠	1
				洛特沙地ぶどう	2
				一品香	3
				アリゴ特	4
				バラの香り	5
44	果穂：形 PQ (e) (+)	89 VG	円柱形 楕円形 分枝形	贵人香	1
				バラの香り	2
				パレスチナ	3
45	果穂：岐肩 PQ (e) (+)	89 VG	無岐肩 単岐肩 双岐肩 多岐肩	贵人香	1
				貝達	2
				奥坂托	3
				黒佳釀	4
46	果粒：重さ QN (f) (+)	89 MG	極小 小 中 大 極大	ソソぶどう	1
				雷司令	3
				バラの香り	5
				緋	7
				巨峰	9
47	果粒：果粒と果柄 分離の難易 QN (f)	89 VG	易 中 難	紅富士	1
				バラの香り	2
				紅地球	3
48	果粒：果皮の厚さ QN (f)	89 VG	薄 中 厚	無核白	1
				バラの香り	2
				巨峰	3
49	果粒：肉質 PQ (f)	89 VG	軟 脆 硬	白バナナ	1
				里ザ馬特	2
				紅地球	3
50	果粒：果皮の渋味 QN (f)	89 VG	無又は弱 中 強	白雅	1
					2
				バラの香り	3
51	成熟枝条：熟し うの色 PQ	93～99 VG	黄褐 橙褐 暗褐 赤褐 紫	贵人香	1
				バラの香り	2
				白沙斯拉	3
				巨峰	4
				貝達	5

附録 B
(規範性附録)

ぶどう形質一覧表の解釈

B.1 ぶどうの生育段階

表 B.1 ぶどうの生育段階一覧表

生育段階階級	記述
主要生育段階 0	萌芽期
00	休眠期間:冬芽が丸くなり、品種によっては茶色くなったり、芽鱗が閉じたりする。
01	芽眼が膨らむ期間：芽が芽鱗の中で膨らみ始める。
03	芽眼が膨らむ後期：芽が膨らむが、毛じが無く、まだ緑色にはならない。
05	。
07	毛じ期:茶色の毛が見える。
09	芽眼が芽生え始期:5%の芽眼に緑色のしょう先が見える。 芽眼が芽生える：緑色のしょう先がはっきり見える。
主要生育段階 1	羽根成長期
11	第一葉が伸び出して展開し始める。
12	第二葉が展開する。
13	第三葉が展開する。
14	第四葉が展開する。
15	第五葉が展開する。
16	第六葉が展開する。
19	第九枚以上の葉が展開する。
主要生育段階 5	花序出現期
53	花序がはっきりと見える。
55	花序が膨らみ、花の蕾が緊縮する。
57	花序が十分に伸び、花の蕾が分離する。
主要生育段階 6	開花期
60	花冠が花たくから離れる。
61	開花初期：5%の花冠が落ちる。
63	30%の花冠が落ちる。
65	開花盛期：50%の花冠が落ちる。
68	80%の花冠が落ちる。
69	開花終期。
主要生育段階 7	果実生育期
71	着果。幼果が膨らみ始め、残った花が全部落ちる。
73	幼果が麦粒の大きさとなり、果穂が垂れ始める。
75	幼果が豌豆の大きさとなり、果穂が垂れ始める。

77	封穂期。
79	ハードコア期。
主要生育段階 8	ベリー成熟期
81	ベリー成熟始期(転色期)：色付いた果粒が浅い色を現し、無色品種が軟らかくなる。
83	果粒が色付く。
85	果粒が軟らかくなる。
89	成熟期。
主要生育段階 9	生育末期
91	果実が収穫された後、新しょうが十分に木質化する。
92	葉が色あせ始める。
93	葉が脱落实始める。
95	50%の葉が落ちる。
97	葉が完全に落ちる。
99	冬越え段階。

B.2 複数の形質に関する解釈

形質一覧表の第二欄には下記重要な形質を含む。

(a) 幼しょう：しょう先が閉じることから半分開くことまでの場合、調査部位が第一枚開く若葉の含む上部しょう先である。しょう先が広く開くものから全部開くものまでの場合、調査部位が展開した第二枚の若葉の含む上部しょう先である。

(b) 若葉：しょう先が閉じることから半分開く品種の場合、しょう先の第二の展開した葉を調査する。しょう先が広く開くものから全部開く品種の場合、しょう先の第四の展開した葉を調査する。

(c) 新しょう：新しょうに対して木の中部の枝を調査する。

(d) 成葉：成葉に対して第 7～9 枚の葉を調査する。

(e) 果穂：中庸枝に着生した 10 の典型的な穂をランダムに抽出する。

(f) 果粒：各果穂の中部に 3 つの果粒をランダムに抽出し、計 30 の果粒を抽出する。

B.3 個体の形質に関する解釈

形質の階級とコードについて、表 A.1 と表 A.2 を参照ください。

形質 1 萌芽始期

5%の芽眼が萌える時は萌芽開始期であり、図 B.1 を参照ください。



形質 2 幼しょう：しょう先の開く程度、図 B.2 を参照ください。



閉じる

半開き

開く

図 B.2 幼しょう：しょう先が開く程度

形質 4 幼しょう先端の毛じのアントシアン着色の強弱。図 B.3 を参照ください。



無し又は極弱

弱

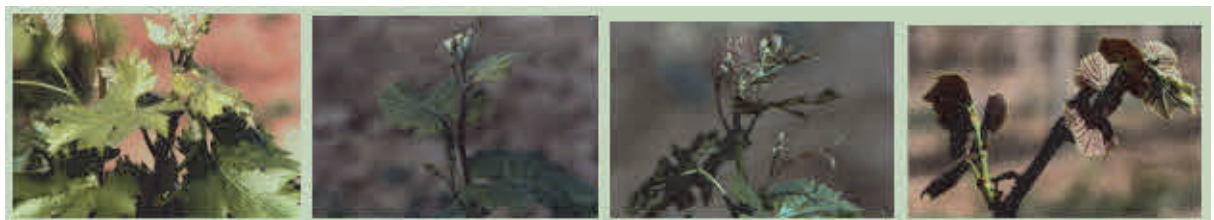
中

強

極強

図 B.3 新しょう：幼しょう先端の毛じのアントシアン着色の強弱

形質 5 若葉：表面の色、図 B.4 を参照ください。



黄緑

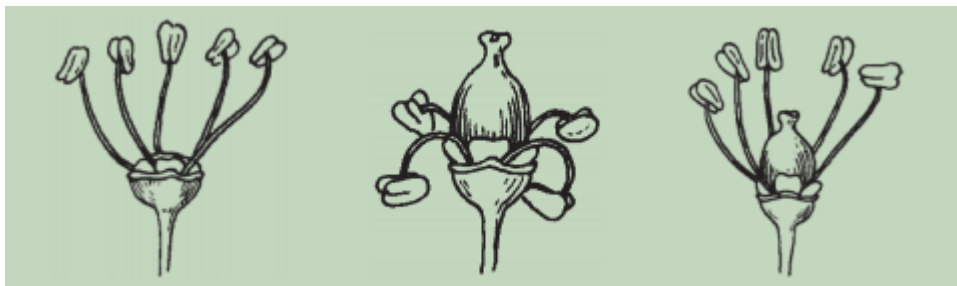
紅斑を伴う緑

濃紅褐

赤紫

図 B.4 幼葉：表面の色

形質 8 花序：花器のタイプ。図 B.5 を参照ください。



雄性

雌性

両性

図 B.5 花序：花器のタイプ

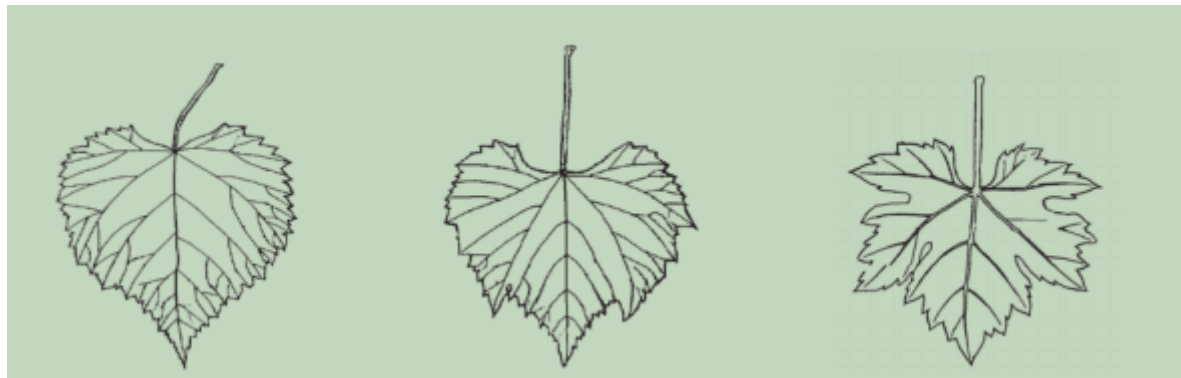
形質 9 成葉、大きさ。

定規で測定し、葉の面積の平均値を計算し、0.1cm² まで精確する。葉の面積の計算方法：
 葉の面積(cm²)=葉の長さ (cm) × 葉の幅 (cm)。図 B. 11 を参照して測定し、表 B. 2 を参照して分級する。

表 B. 2 成葉の大きさ分級標準

分級	極小	小	中	大	極大
分級標準 (cm ²)	< 350.0	400.0～450.0	500.0～650.0	700.0～750.0	> 800.0
コード	1	3	5	7	9

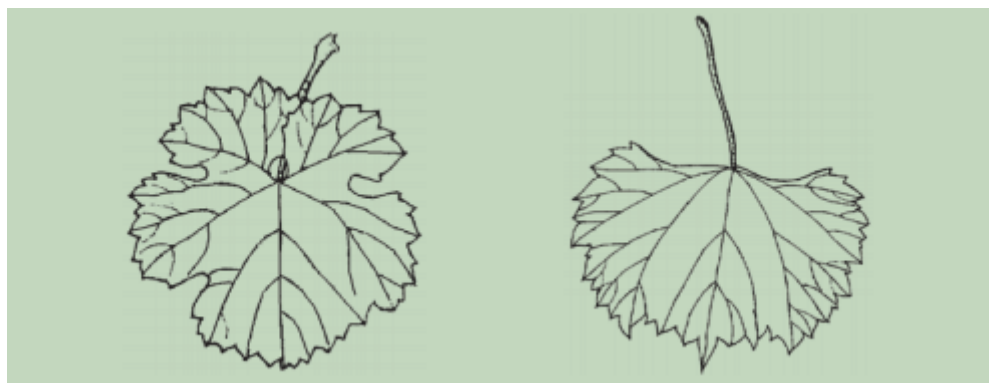
形質 10 成葉：形。図 B. 6 を参照ください。



ハート形

三角形

五角形



円形

腎形

図 B. 6 成葉：形

形質 11 成葉：裂片の数、図 B.7 を参照ください。

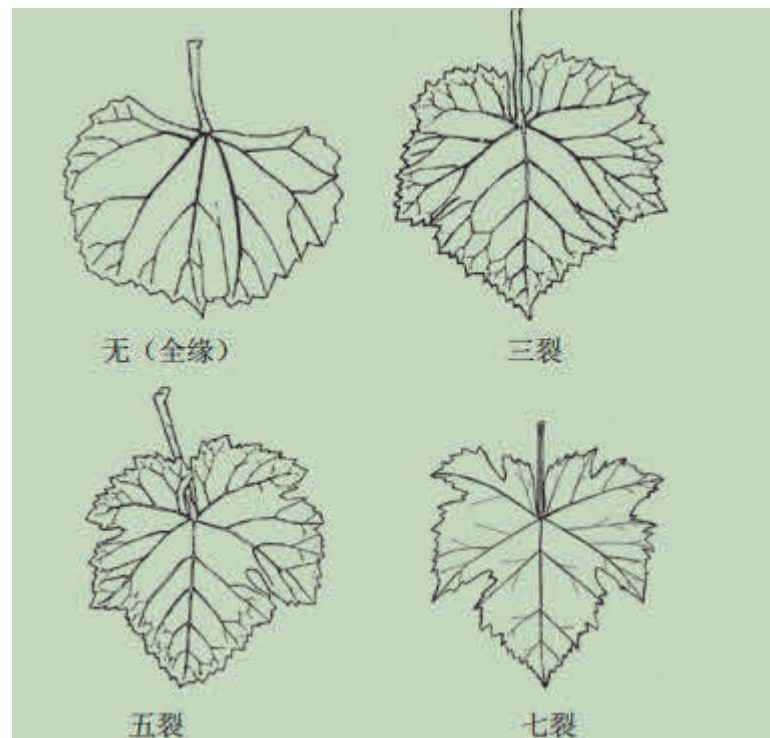
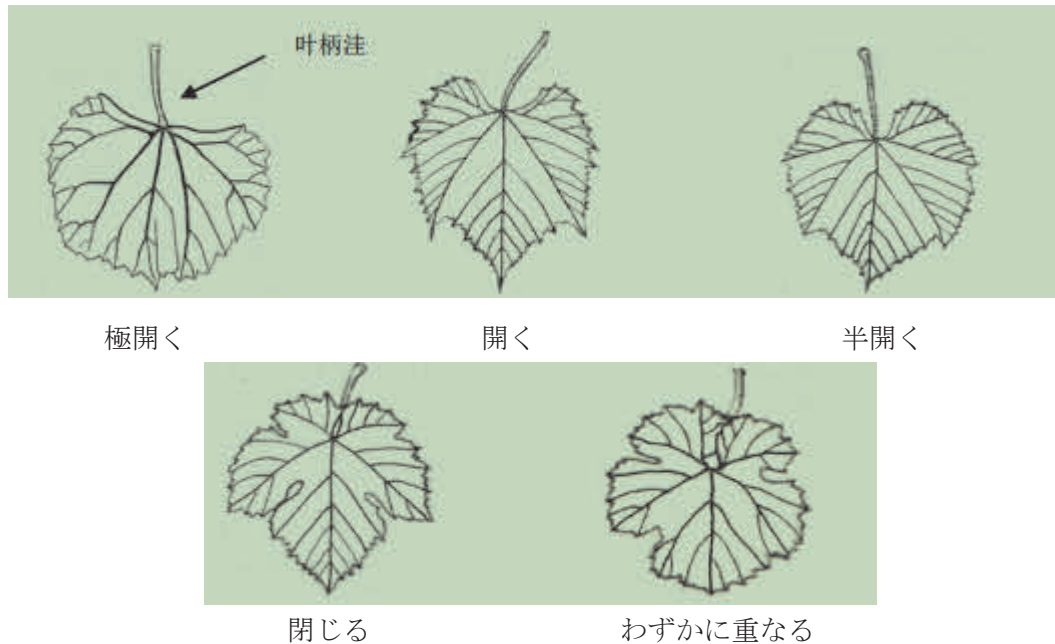


図 B.7 成葉：裂片の数

形質 12 成葉：葉柄窪の開き重なるタイプ、図 B.8 を参照ください。





中度重なる 高度重なる
図 B.8 成葉：葉柄窪の開き重なるタイプ

形質 13 成葉の鋸歯の長さ

二級葉脈末先の鋸歯を調査し、各葉に 1～2 の典型鋸歯を選び、鋸歯の最大の長さを測定し、平均値を計算し、0.1cm まで精確化する。表 B.3 を参照して分級する。

表 B.3 成葉の鋸歯の長さの分級標準

分級	短	中	長
分級標準 (cm)	≤0.5	0.8～1.1	≥1.4
コード	1	3	5

形質 14 成葉の鋸歯の長さ／基部幅。

二級葉脈末先の鋸歯を調査し、各葉に 1～2 の典型鋸歯を選び、鋸歯の最大の長さと鋸歯基部の幅を測定し、平均値を計算し、0.01cm まで精確化する。表 B.4 を参照して分級する。

表 B.4 成葉の鋸歯の長さ／基部幅の分級標準

分級	小さい	やや小さい	相当	やや大きい	大きい
分級標準	≤0.80	0.85～0.90	0.95～1.00	1.05～1.10	≥1.20
コード	1	3	5	7	9

形質 15 成葉の鋸歯の形。図 B.9 を参照ください。

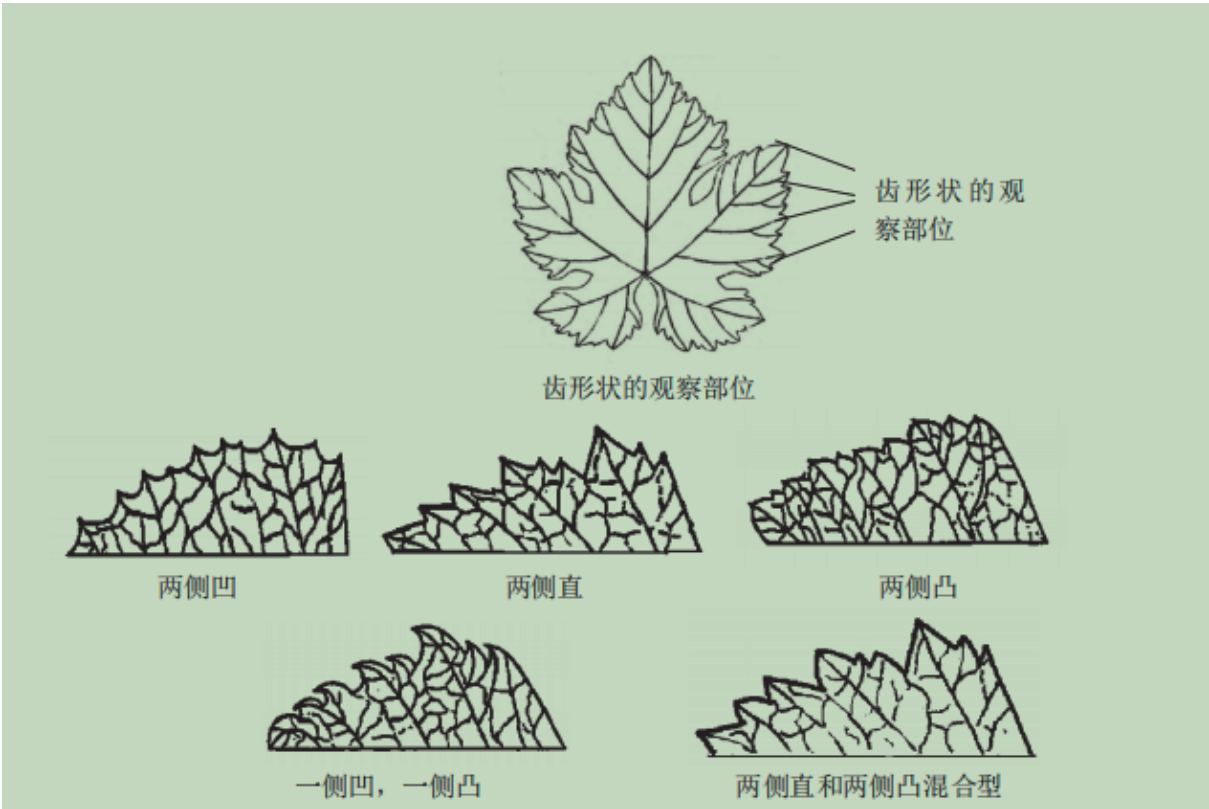


図 B.9 成葉の鋸歯の形

形質 16 成葉表面の主脈のアントシアニン着色の強弱

成葉表面の主脈が基部から中部までのアントシアニン着色の強弱を調査する

形質 19 果実成熟始期。

有色品種の果粒が淡色を現し始め、黄色い、緑色の品種が軟らかくなる時が果粒成熟始期であり、5%の果粒の成熟し始める時は果実の成熟始期となる。芽生え期から果実成熟始期までの日々を計算し、表 B.5 を参照して分級する。

表 B.5 果実成熟始期の分級標準

分級	極早	早い	中	遅い	極遅
分級標準 (d)	≤80	88~94	102~108	116~122	≥130
コード	1	3	5	7	9

形質 20 果房の大きさ。図 B.10 を参照ください。

果房の大きさは投影面積で表示し、平均値を計算し、1cm²まで精確化する。果房の大きさ (cm²)=果房の長さ (cm) (穂梗が除く) ×果房の幅 (cm)。表 B.6 を参照して分級する。

表 B.6 穂の大きさの分級標準

分級	極小	小	中	大	極大
分級標準 (cm ²)	≤50	150~250	350~450	550~650	≥750
コード	1	3	5	7	9

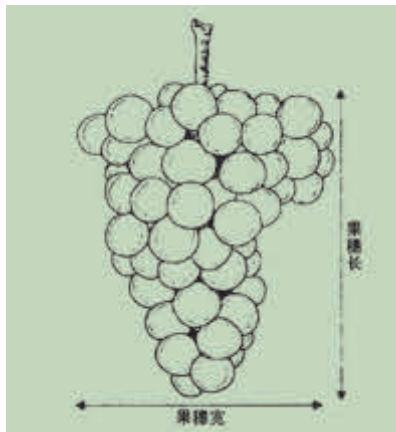


図 B.10 果房の大きさ

形質 21 果房の緊密度

果房を平面に置いた後、果房の形を調査する。表 B.7 を参照して分類する。

表 B.7 果房の緊密度の分類標準

分類	極緩	緩	中	緊	極緊
分類標準 (果穂平放)	すべての分枝がほぼ一つの平面上にある	その形状が著しく変化する	その形状がわずかに変化する	その形状が変化する	その形状は変わらず、相互に押出されて果粒が変形する
コード	1	3	5	7	9

形質 22 果房の長さ

表 B.8 果房の長さの分級標準

分類	極小	小	中	大	極大
分類標準 (cm)	≤3.0	約 5.0	約 7.0	約 9.0	≥11.0
コード	1	3	5	7	9

形質 23 果粒の大きさ

図 B.11 を参照して各果粒の大きさ（投影面積）を測定し、平均値を計算し、0.1cm²まで精確化する。果粒の大きさ (cm²) = 粒の長さ (cm) × 粒の幅 (cm)。表 B.9 を参照して分級する。

表 B.9 果粒の大きさの分級標準

分類	極小	小	中	大	極大
分類標準 (cm ²)	≤2.0	2.5～3.0	3.5～4.5	5.5～6.5	≥7.5
コード	1	3	5	7	9

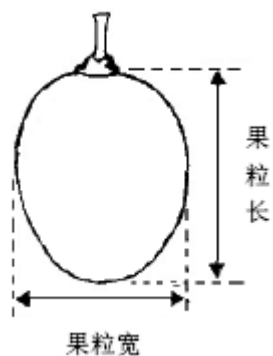


図 B. 11 果粒：大小

形質 24 果粒の形、図 B. 12 を参照ください。

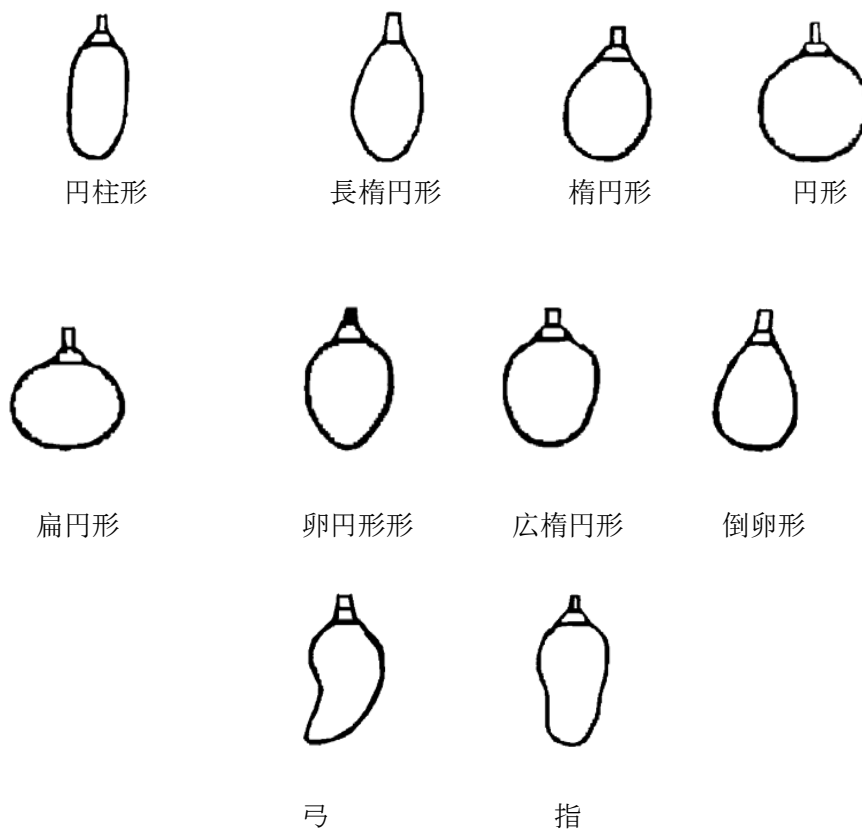


図 B. 12 果粒の形

形質 26 果粒：果肉の色

果粒の中部を切って、果粒の横断面の肉の色を調査する。

形質 28 果粒：種子の状況

感覚的判断。敗育現象が無く、種子が形成されないものは種子無しである。敗育痕跡があるが、食べる時は感じられないものが敗育タイプⅠである。コルク化ししなびた種子は敗育タイプⅡである。種子が十分に発育して当該品種の特徴を現すものが普通の種子である。

形質 31 新しょうの向き

図 B. 13 を参照して調査する。

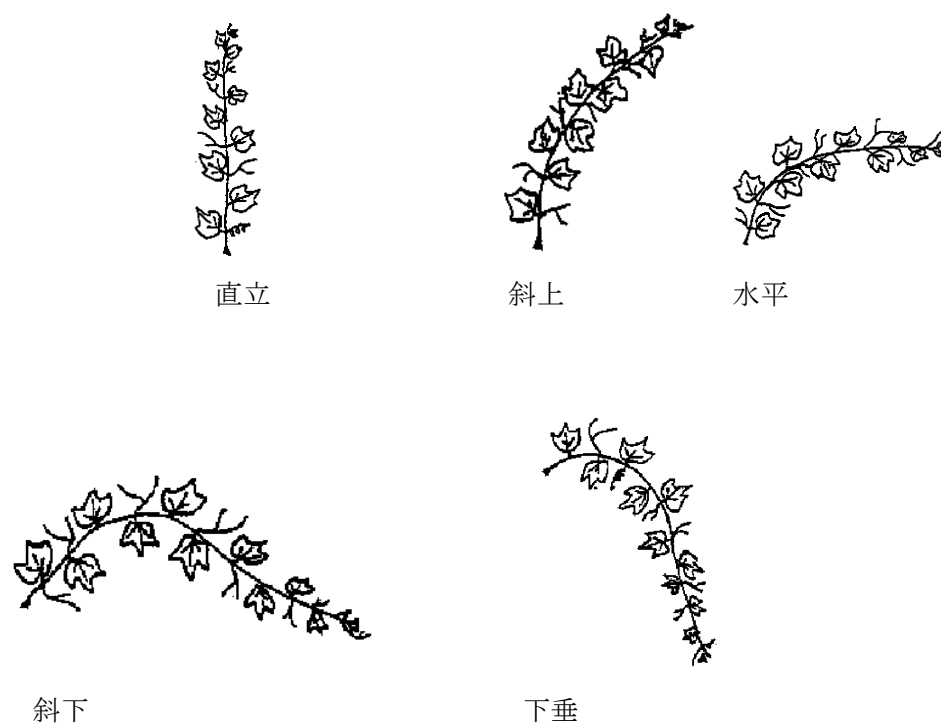


図 B. 13 新しょう：姿勢

形質 32 新しょうの節間の下面の色，図 B を参照ください。

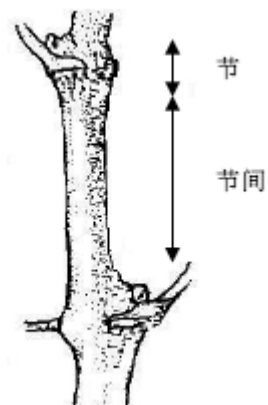
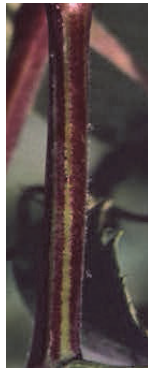


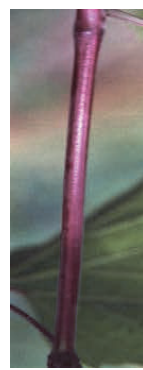
図 B. 14 ぶどうの枝の節と節間部位



緑色



赤と緑



赤色

図 B. 15 新しょう節間背側色



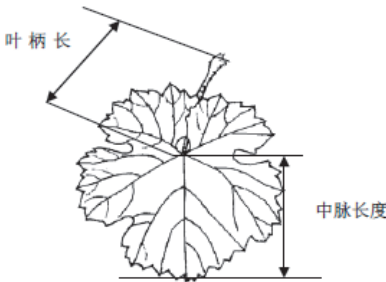
図B. 16 新しょう断面図

形質37 成葉：葉柄の長さ/中脈の長さの比例

葉柄と主脈の長さの比率とその平均値を計算し、0.01まで精確化し、葉柄と中脈の測定位置を図B. 17を参照してください。表B. 10を参照して分級する。

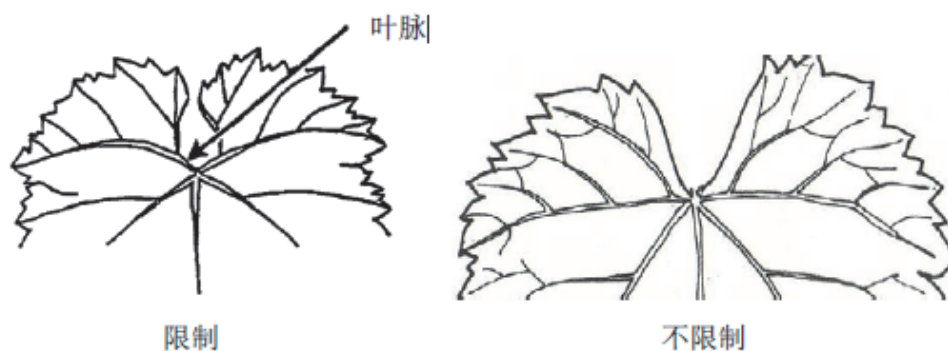
表 B. 10 葉柄の長さ/中脈の比率の分級標準

分級	極小	小	大	極大
分級標準	≤ 0.90	$0.91 \sim 0.96$	$1.03 \sim 1.08$	≥ 1.09
コード	1	2	4	5



図B. 17 葉柄と中脈の測定位置

形質 38 成葉：葉柄窪が葉脈に制限されるタイプ。図 B. 18 を参照ください。



図B. 18 成葉：葉柄窪が葉脈に制限されるタイプ

形質 39 成葉：泡状が浮き出す。図 B. 19 を参照ください。



図 B. 19 成葉：泡状が浮き出す

形質40 成葉の上裂刻の深さ

側裂片が主脈の基点の方向へ折りたたみ、裂片の先端が裂片基部から主脈基点までの距離の半分に達しないものは浅い；半分を超えたものはやや浅い；基点に達したものは中；基点から裂刻の基部までの距離に達して二倍に達しないものは深い；基点から裂刻基部までの距離の二倍以上のものは極め深い。図B. 20を参照ください。

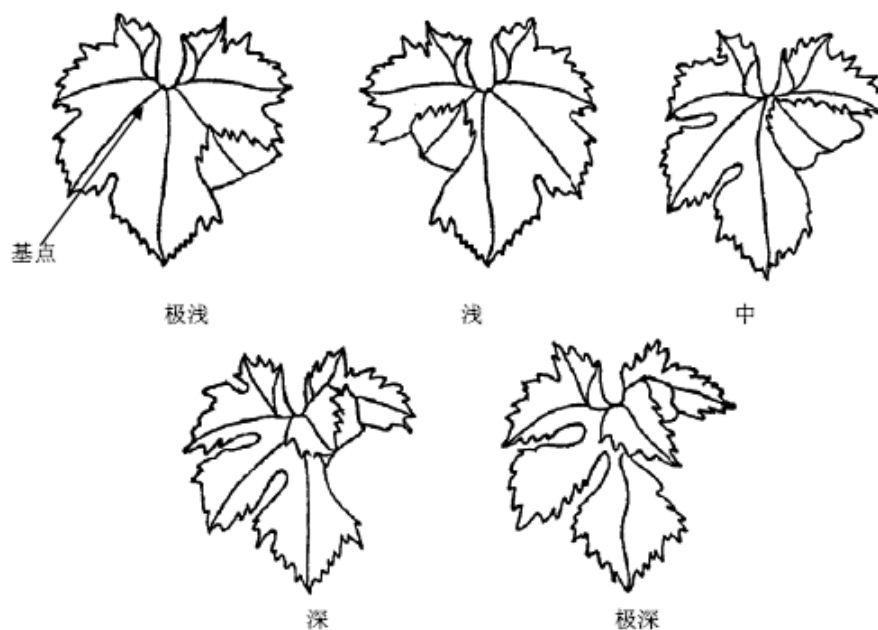


図 B. 20 成葉：上裂刻の深さ

形質 41 成葉：上裂刻裂片の重なりタイプ，図 B. 21 へ参照ください。

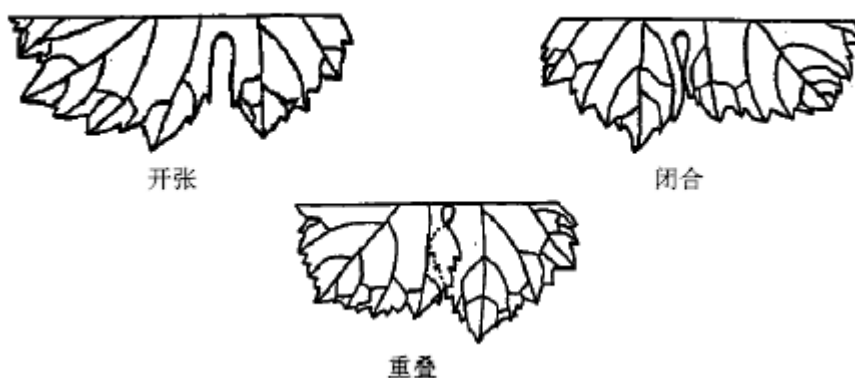
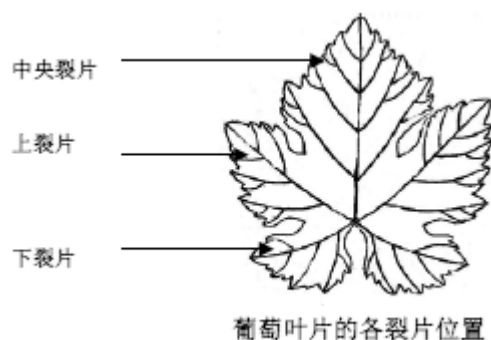
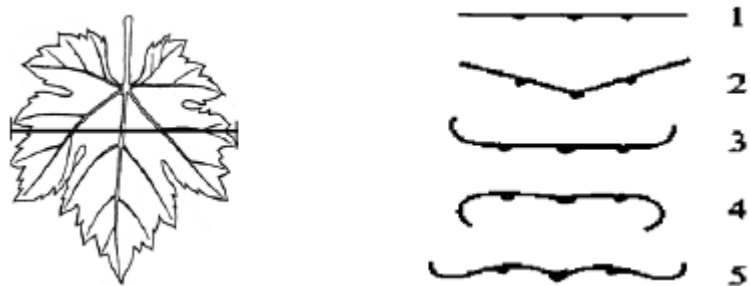


図 B. 21 成葉：上裂刻裂片の重なりタイプ

形質43 成葉：横断面の形状

葉の中部を横切って横断面の形状を調査する。図B. 22を参照ください。



図B. 22 成葉：横断面の形状

形質44 果穂の形

調査される果穂がその自然的な形でなければならない。図B. 23を参照ください。



形質45 果穂：岐肩

調査される果穂がその自然的な形でなければならない。果穂の上の岐肩の密度を調査する。図B. 24を参照ください。



図B. 24 果穂：岐肩

形質46 果粒の重さ

30の果粒の重さを量り、各果粒の平均値を計算し、0.1gまで精確化する。表B. 11を参照して分級する。

表 B. 11 果粒重量分級标准

分級	極小	小	中	大	極大
分級標準 (g)	≤1.5	2.5~2.3	3.0~5.0	7.0~9.0	≥12.0
コード	1	3	5	7	9

形質51 成熟の枝：主な色

一年生成熟の枝の中部の色を調査する。

附録 C
(規範性附録)
ぶどう特性表用紙

ぶどう特性調査表

(出願者又は代理機構捺印)

出願番号:
出願日:
[審査機関記載欄]

C.1 出願品種仮名称: _____

C.2 植物の分類

次の該当の[]に✓を付す。

属名: ぶどう属

ユーラシア種 *V. vinifera* []

アメリカ州種 *V. labrusca* []

欧米雑種 *V. vinifera-V. labrusca* []

その他 (品種の名称)

C.3 品種の種類

C.3.1 核有りの生食用品種 []

C.3.2 核無しの生食用品種 []

C.3.3 酒醸造用の品種 []

C.3.4 台木品種 []

C.4 出願品種の特性を示すカラー写真

(1) カラー写真が出願品種の丸株又は穂 (花、果実) など複数の形質又は一つの形質を容易に現すものである;

(2) 写真の規格が8.5cm×12.5cm又は10cm×15cm;

(3) 写真が多い場合、添付にて提供してください。

{品種の写真をここに貼り付けてください}

C.5 その他、出願品種の特性判明に役立つ補足情報

(例えば：品種の用途、抵抗性などに関する詳細な情報)

C.6 品種栽培又は試験では、特別な条件が必要か？

該当の[]に✓を付す。

はい[] いいえ[]

(“はい”と回答した場合、詳細な情報を提供してください)

C.7 品種種苗の保存には、特別な条件が必要か？

該当の[]に✓を付す。

はい[] いいえ[]

(“はい”と回答した場合、詳細な情報を提供してください)

C.8 出願品種の形質

表C.1該当のコードの後ろの[]に✓を付す。測定値があれば、表C.1中に記入してください。

表C.1申請品種需要指出的性状

形質	形質描述	コード	測定値
8.1 嫩しょう：しょう先の開く程度(形質2)	閉じる	1[]	
	わずかに閉じる	2[]	
	半開き	3[]	
	大きく開く	4[]	
	全部開く	5[]	
8.2 若葉の表面の色(形質5)	黄緑	1[]	
	緑	2[]	
	紅斑を伴う緑	3[]	
	淡赤銅	4[]	
	赤銅	5[]	
	濃紅	6[]	

形質	形質描述	コード	測定値
8.3 若葉裏面の主脈 上の毛じの密度(形質6)	無又は極粗 極粗から粗まで 粗 粗から中まで 中 中から密まで 密 密から極密まで 極密	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[] 7[] 8[] 9[]	
8.4 花序：花器タイプ(形質8)	雄花 雌能花 両性花	1[] 2[] 3[]	
8.5 成葉：裂片の数(形質11)	無し 三つ 五つ 七つ 七つ以上	1[] 2[] 3[] 4[] 5[]	
8.6 果実成熟始期(形質18)	極早 極早から早まで 早 早から中まで 中 中から遅いまで 遅い 遅いから極遅い まで 極遅い	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[] 7[] 8[] 9[]	
8.7 果粒の形(性状24)	円柱形 狭楕円形 楕円形 円形 扁円形 卵円形 丸卵形 倒卵形 弓 指	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[] 7[] 8[] 9[] 10[]	

形質	形質描述	コード	測定値
8.8果粒の色（果粉を除く） （形質25）	緑 黄緑 黄 浅紅 赤 灰赤 濃黒 青黒	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[] 7[] 8[]	
8.9果肉のアントシアニン着色の強弱（形質26）	無し又は極浅 極浅から浅まで 浅 浅から中まで 中 中から深まで 深 深から極深まで 極深	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[] 7[] 8[] 9[]	極軽 非常軽 軽 やや軽 中 やや重 重 非常重 極重
8.10 果粒の香り（形質27）	無し バラの香り イチゴの香り フォクシー ハーブ その他	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[]	
8.11果粒の種（形質28）	無し 敗育タイプ1 敗育タイプ2 正常	1[] 2[] 3[] 4[] 5[] 6[]	

